第46回白鷺の街自治会総会 開催



布 議 て \mathcal{O} 成 内 11 + ま 容 0 年

い

て

は

事

前

に

各

戸

一百二 わ出自 \mathcal{O} 第 +各 た せ 席 治 兀 \mathcal{O} + る 者 会 + 議 لح で は 館 案 五. 年 六 合 会 名 六 兀 が に 口 + 則 計二 \mathcal{O} 7 月 承 白 \equiv 開 認 名 + に さ よ分 百 催 兀 \mathcal{O} 名となり 委任 れ り \mathcal{O} されました。 日 街 り総会が成立たの二以上を上1 ました。 自 月 状 治 り、 百四十名 会 午 総 後 会員 숲 回り が 時 数 ょ



白鷺だよ

白鷺の街自治会 関口 保 令和元年六月

平

-成三十

年 度

++案 度 年 度 般 事 会 業 計 報

第

議

平

 \equiv

第

議

地 報 \equiv 告 管 理 숲 計 \mathcal{O} 決算報 告 及 び

監 空

き 成 号 成 号

平 成 号 査 三 議 + 案 年 度 役員 案

第

案 度 般 会計 予 算

第

六

号

議 三 議 \mathcal{O}

第

案

平 五

成 号

+

年

度

事

業

画

案

第

議

案

会四則号

部

変

更



議事進行する竹内議長



挨拶する関口会長



決算報告する赤井前会計

相広文防生総会副会 談報化犯活務計会長 役部体防環部長育災境長 部部部 長長長

長墨竹小高伊乾若安有多北関役 松達賀田村 川利一宏正久健徳久弘正和好昭雄志明二治子美康春行保 脇 康 子

谷江内野橋藤

顧

問

美 湯 赤宇 原 井 多 光 光 典修 雄



よろしくお願いします!

新 任 部 長 挨 拶

広

報

部

伊

藤

久二子

総 務 部 有 弘



さ気人治退しん持の会任ま 持を大いのよう 動切なに 数十年 いにしながらぬる新鮮な気持て 新携 年 て行 わ 経班総 **鮮な気持です。このわることが出来、新** 過 有 き 賀部 た てで長 総務部 · と 思 に長拝 \mathcal{O} 11 ま皆の新自を命

境 部 長 安 達 久 美子



にで

よう

め

思

あ

願 · を 通

目

L 高

の私思

ŧ う

げでをい色初せ 、今年一年、一年では、日本とご不知 めて ま T 頂 年一年一年 生 をす 安 宜頑 員 のおの達 張 環 べって 定と申し、境部長、 で、 方か 々 け 願い申ん参りまれ する様に ょ り 御かに す。 しす指とは 上の導思

> か情足とツ町なそ変ら報にも一内行れわ 隅 い主り Þ か目 たい という も源り を明れて をのれて ものれて もの 変わってゆくと思った。 変わってゆくと思った。 お時代に即した「白鷺だよ源であったと思います。これ源であったと思います。これの勝ちな者にとって大事な りの ページ数、 思は変時代 で 十 めった事は変わらずの動向などを知る-||地区との交流| 、ます。 こ の 辺 た。 す。親しみがな辺りにあるのでゆくと思いれ 読み手 とは たい 流、それ る大切・ も大きく る大切なそして、そして、間の様々 あで り、はす ょ 一紙助面 なが



防 防 災部 徳子

その

ため

歯

以

外

病

気

知

犯

長

若 松

とや昨せ過身、今つぎ 思まんさ自 せ K 治 未 身 ぎ白て今 会知がまのかま 鷺 頂年 、一年間 本さん、相 負の方々や に住んで四十年 にはので協力をお願 が引き締まる思いです が引き締まる思いです が引き締まる思いです が引き締まる思いです が引き締まる思いです が引き締まる思いです がの世界で不安が一杯 きますの防 一様木役員界 こ住若犯 ん松防 中談役の小安が一 災部長でござ 部一員杯 せ を 願い 致し ですが ―― す。に災害

今季よろ

こくお願

1

たし

ま



菜を 園 生ゴ 約い量 2 ま لح · //· 0 0 計 ㎡ 健 約 管 3 理会 社 虫 はた ち種 し 類の家務 と育 類 野庭を らて

す化た化あ滅。体"。つ可 さきの点点 面 可 0 喰 文 て、 能 南 点い 化 で出が られ 性 0 部の皆さんと任になれを受け入れつつ変化を受け入れつつ変に自治体候補の利担性自治体候補の利担に、 来あり 9 育 慣部 まし れに 充実しる高い べ充 あ < ます。 町にくけ、 お た す。 気 任 り づに 齢 消 ま文



文化 体 育 部 長 乾 健 治

令 国 皆和的二五 発 猛 그 月] の暑) ご協力 ス十 で 六 ŧ 日 力除 を百報 日 無 十 道 事五さ に名れ春 終のる \mathcal{O} 方程 大 了 々の掃 げ す るに五除 ま を す。 事 参 月 が加と実 しは施 で きまいえ L いえま したなし した。 た。 き全。

活 環 境 部 安

し担組と令 て和 を式も元 IJ 暑年 ヤいに 日な لح 0 はなて り早 ま々 しの 訓 は 太 陽 が 照 ŋ 付

け

今 加回た架立 初 負乗 \otimes 傷 いて せ 者 負 力] 役 傷 公の者 方 を ば ば ま 態 感 がく かとうございまな作業す。 謝は出 大 来 し た 未だと思いる。 心上

まに

き 公大園 がし 、 ました。

て

た



るらい

利 根 町 の 歴 史 か

りた わと河 寄拝取 、としれか出当りし勝徳 下には、 寺と寺 総 布 鹿 関 に知の 川島ヶ 泊友日 まで山 の神原 つあ住 来宮の 見等戦 たっ職 とたが 寺にい 言こ三 に参の

しが礼康には松康たと家いかてら身時またの川てには境、をはこか康っしい、でのし後御家、松梅、内関気、とらのて、ま来家来た、礼康家替のたのケに来も、命も関す見康見。下には 命も関す見康見

い この 記和本 また うそれお家念尚の家っこ 別寺こた ののとめ

班二二七 号 佐 藤 高 市

が質徳当特

しらさぎ伝言板

四計

月

十三

か

か

生

自 治 会 活 動 予 定

たく

さ

つくって

ほ

で

部

い生

友達

学

活友校

を達生

勉

強

B

しかぬ

今号から一年間

- 間、何· のあるか の新年

卒よっ

ろれ体

しま制で

おんす。

致れら

願が いこ至

じ

 \mathcal{O}

一所

嫌好はいき

め教教

て科科

なな

小今国容

学の語師

年な音な

で

す。 算 V

い楽り

来

に

た

<u>6月</u>

<u>7月</u>

6/22(土) 消防団との懇談会

 $7/6 \ (\pm)$ 臨時役員会(納涼大会打合せ)

7/13(±)納涼大会実行委員会

7/21(日) 納涼大会準備 7/24(水) 盆踊り練習

7/27(±)納涼大会

納涼大会後片付け 7/28(日)

社会福祉協議会 会員募集



した。二

ま白名は

鷺の白鷺

)街をあげて F学生が新れ

八てお喜び二名の

びれ小

申ま学

二年

上げ

す。

小 学

ず き

す 班 しょう) λ

小 将 لح 学 将来の夢は、パイロッ 友達をたくさん作り と勉強です。好きな勢学校でがんばりたいこ ット り で 教 た す。 科 はは にい なで そ

ることです。

学

校

うテ生鉄の

型強を頑張な 人トで良い4 に対する4

り成抱事

た績負に

就

き

た

V

が

と

れ

る

ょ

すれ数体

大 〜 関 十二 お芽 班ぜ生 き子 八め O M

さ

 λ

藤

莉

(さとうりこ) さ

W

班

二六〇

来活き \mathcal{O} な 奏 科 楽 部体 育 音 楽 家

将 部 好

頑を活音夢吹教 優張りたい に対するな ないっぱいな 作抱仕 っ負事 に 就 き た 庭 科 V

編 集後 記



白鷺の街自治会の桜(4/13撮影)

新 中 学 生

宇 (四 変 だ 六か なと) 十一号 君

将部 好 来活き な 勉ス活道夢卓教 球 科 社 숲 に 歴 史

部

転 出

三月三十 六 班 今 川九 日 + 七

で! 八代さ W

元

気

三 **転** 心 月 **入** より 班 七 日 八

ようこそ 久 白保一 鷺 添 四 \mathcal{O} 街隆号 資 ! さ W

十二三五班日 お 悔 Þ 田 4 申へ 享 L 治 上げまするん